

**文学部・文学研究科**

I	研究の水準	.....	研究 1-2
II	質の向上度	.....	研究 1-4

## I 研究の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 期待される水準を上回る

〔判断理由〕

観点1-1「研究活動の状況」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）において公表された教員の業績は、単著52件（そのうち日本語以外の言語によるもの10件、以下括弧内は同様）、共著・編著・共編著244件（69件）、翻訳・校訂・史料集61件（1件）、雑誌論文693件（242件）、招待講演607件（252件）、口頭研究発表757件（275件）となっている。
- 平成22年度にグローバルCOEプログラム「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」、平成24年度に卓越した大学院拠点形成支援補助金の採択を受けている。また、第2期中期目標期間の科学研究費助成事業の採択状況は、平均約2億5,600万円となっている。
- アジア親密圏／公共圏教育研究センターを現代アジアが共存・共生していくための日本学・アジア学の世界的拠点として形成し、海外研究者や実務家等を招へいして講演会・シンポジウム、セミナーを開催することで、その研究成果を『変容する親密圏と公共圏』（京都大学学術出版会）と『The Intimate and the Public in Asian and Global Perspectives』（Brill）において公刊（前者は11巻、後者は9巻）している。
- 「京都学派アーカイブ」を構築し、西田幾多郎、田辺元の手稿とその関連史料をデジタル画像化して一般に提供している。

以上の状況等及び文学部・文学研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

### 分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 期待される水準を上回る

〔判断理由〕

観点2-1「研究成果の状況」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 学術面では、特に日本文学、英米・英語圏文学、哲学・倫理学、文化人類学・民俗学、人文地理学の細目において卓越した研究成果がある。また、日本学士院賞・恩賜賞、和辻哲郎文化賞（学術部門）、日本文化人類学会賞、濱田

青陵賞等、研究成果に関わる受賞は、国内外の賞を合わせて 25 件となっている。

- 卓越した研究業績として、日本文学の「和漢聯句の研究」、英米・英語圏文学の「チャールズ・ディケンズ研究」、哲学・倫理学の「アリストテレスを起点とする心的基礎概念の歴史研究」、「分析アジア哲学」、文化人類学・民俗学の「現代人類学が直面する困難を克服するための理論的実践論的研究」、人文地理学の「国際人口移動および在留外国人の研究」がある。そのうち「アリストテレスを起点とする心的基礎概念の歴史研究」について、『魂の変容—心的基礎概念の歴史的構成』が平成 24 年の和辻哲郎文化賞を受賞している。
- 特徴的な研究業績として、アジア史・アフリカ史の「内蒙古東部・遼寧西部における出土資料の調査に基づく鮮卑・契丹史の研究」、脳計測科学の「脳の情報表現の解明」、言語学の「消滅危機の言語および文化のためのデジタル・ミュージアム」がある。
- 社会、経済、文化面では、特に地域研究の細目において卓越した研究成果がある。
- 卓越した研究業績として、地域研究の「アクションリサーチと地域に根差した学問」があり、当該研究の調査から人身売買の事例を発見してフィリピン政府等とともに問題の解決に向けて取り組み、フィリピン大統領賞を受賞している。
- 特徴的な研究業績として、ヨーロッパ文学の「プルースト『失われた時を求めて』の翻訳・注解」、ヨーロッパ史・アメリカ史の「ローマ帝国の衰亡に関する研究」がある。

以上の状況等及び文学部・文学研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

なお、文学部・文学研究科の専任教員数は 91 名、提出された研究業績数は 21 件となっている。

学術面では、提出された研究業績 20 件（延べ 40 件）について判定した結果、「SS」は 4 割、「S」は 5 割となっている。

社会、経済、文化面では、提出された研究業績 8 件（延べ 16 件）について判定した結果、「SS」は 3 割、「S」は 4 割となっている。

（※判定の延べ件数とは、1 件の研究業績に対して 2 名の評価者が判定した結果の件数の総和）

## II 質の向上度

### 1. 質の向上度

〔判定〕 高い質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「研究活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- アジア親密圏／公共圏教育研究センターを拠点に海外研究者や実務家等を招へいし、講演会・シンポジウム、セミナーを開催しており、その研究成果を『変容する親密圏と公共圏』（京都大学学術出版会）と『The Intimate and the Public in Asian and Global Perspectives』（Brill）において公刊（前者は11巻、後者は9巻）している。
- 「京大学派アーカイブ」を構築し、西田幾多郎、田辺元の手稿とその関連史料をデジタル画像化して一般に提供している。
- 第2期中期目標期間における科学研究費助成事業の採択状況は、平均約2億5,600万円となっている。

分析項目Ⅱ「研究成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 卓越した研究業績として、日本文学の「和漢聯句の研究」、英米・英語圏文学の「チャールズ・ディケンズ研究」、哲学・倫理学の「アリストテレスを起点とする心的基礎概念の歴史研究」、「分析アジア哲学」、文化人類学・民俗学の「現代人類学が直面する困難を克服するための理論的実践論的研究」、人文地理学の「国際人口移動および在留外国人の研究」、地域研究の「アクションリサーチと地域に根差した学問」がある。
- 日本学士院賞・恩賜賞、和辻哲郎文化賞（学術部門）、日本文化人類学会賞、濱田青陵賞等、研究成果に関わる受賞は、国内外の賞を合わせて25件となっている。

これらに加え、第1期中期目標期間の現況分析における研究水準の結果も勘案し、総合的に判定した。

### 2. 注目すべき質の向上

- アジア親密圏／公共圏教育研究センターを拠点に海外研究者や実務家等を招へいし、講演会・シンポジウム、セミナーを開催しており、その研究成果を『変容する親密圏と公共圏』（京都大学学術出版会）と『The Intimate and the Public in Asian and Global Perspectives』（Brill）において公刊（前者は11巻、後者は9巻）している。